

胴枯病（なしの胴枯性病害）に注意しましょう

◎胴枯病（なしの胴枯性病害）とは

○胴枯性病害は、せん定などでできた幹や枝の傷口からナシ胴枯病菌またはナシ枝枯病菌が侵入し、徐々に病斑が広がって樹が衰弱し、最後には枯死する病害です。また、花や果実がナシ胴枯病菌に感染すると収穫期に果実が腐敗する「心腐れ症」を発症します。

○胴枯病は健全な樹皮組織には感染できず、凍害や凍霜害による枯死部、せん定や風害でできた傷口、害虫の加害痕等から樹体に侵入します。

○特に「幸水」では発生しやすく、「南水」でも多発しているため、適切な予防・防除が必要です。

○胴枯病の例と侵入経路



図 1



図 2



図 3 の拡大図



図 4

図 1～4 胴枯病の症状

樹皮がくぼみ、赤褐色～黒褐色の病斑を形成し、病斑上には多数の柄子殻を作り、樹皮表面はひび割れやサメ肌状態となる。せん定痕の枯れこみや、欠けた芽の跡などから胴枯病菌もしくは枝枯病菌が侵入したとみられる。

図 3 拡大図はサメ肌部分。肉眼で観察できる。



図 3

○胴枯病と間違いやすい粗皮症状



図 5

図 5～7 胴枯病の類似症状

粗皮症状がでているが、症状の境目が不明瞭で窪みがないなど、胴枯性病害の症状ではなし。



図 6



図 7

◎胴枯性病害の対策

○感染前の予防

- ・全てのなし園を対象に、①**せん定時に切り口に塗布剤を塗布**、②**凍害や病害などで枯死した枝幹の除去（ほ場内の伝染源除去）**をしっかりと行い病害菌の侵入を予防します。
- ・**凍害**による枯れこみ（早い時期のせん定や強い先刈りなど）、**幼木（1～3年生）**、**多肥栽培**、**排水不良による根の障害**など**樹勢低下**などで**感染のリスクが増します**。
- ・排水不良園では明きよの設置や、深耕による**排水対策**、幼木や常発地での**わら巻**等の**凍害対策**を行い、**樹勢を維持**します。

○感染後の対策

- ・病斑部を**木部まで削り取り**、**塗布剤を塗布**します。



図8 防除前：胴枯病罹病枝

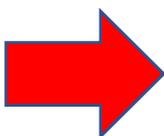


図9 防除後：感染部位を削り取り塗布剤を塗布

○なしの胴枯性病害に登録のある農薬（防除暦からの抜粋）

適用病害	薬剤名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量	同成分薬剤使用回数
枝枯病・胴枯病	ベンレート水和剤	20倍	マシン油乳剤で希釈し塗布	3月～6月	2回以内	-	6回以内(但し、塗布は2回以内、散布は4回以内)
胴枯病	トップジンMペースト	原液	塗布	剪定整枝時及び病患部削り取り直後	3回以内	-	11回以内(但し、塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、灌注は1回以内、生育期の散布は6回以内)
	バッチレート	原液	剪定枝の切り口、病患部の削除跡に塗布	剪定時及び病患部削り取り直後	3回以内	-	12回以内(但し、塗布は3回以内、散布は9回以内)
胴枯病・心腐れ症(胴枯病菌)	トップジンM水和剤	1000～1500倍	散布	収穫前日まで	6回以内	200～700 L/10a	11回以内(但し、塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、灌注は1回以内、生育期の散布は6回以内)
	ベンレート水和剤	2000～3000倍	散布	収穫前日まで	4回以内	200～700 L/10a	6回以内(但し、塗布は2回以内、散布は4回以内)
心腐れ症(胴枯病菌)	スクレアフロアブル	2000～3000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	200～700 L/10a	3回以内
	チオノックフロアブル	500倍	散布	収穫30日前まで	5回以内	200～700 L/10a	5回以内(但し、休眠期は1回以内)
	デランフロアブル	1000倍	散布	収穫60日前まで	4回以内	200～700 L/10a	5回以内
	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000～4000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	200～700 L/10a	3回以内

※ 農薬の使用に当たっては登録情報を確認してください。（令和5年12月20日現在JPP-NET登録情報）

お問い合わせ

南信州農業農村支援センター技術経営普及課
みなみ信州農業協同組合
下伊那園芸農業協同組合

電話：0265-53-0436
(各支所果樹担当へお問い合わせください)
電話：0265-22-2000

令和5年12月作成